

富山県子育て支援・少子化対策県民会議 第4回基本計画策定部会 議事録

- 1 日 時 平成27年2月3日(火) 10:00～11:30
- 2 場 所 高志会館 嘉月
- 3 議 題 基本計画の素案について
- 4 委員発言要旨

計画の名称について

・「新」とすると、何年も「新」と付いていくので、それで大丈夫かなと思う。新幹線も開業するので、「かがやけ とやまっ子 みらいプラン」ではどうか。

(A委員)

・「とやまっ子 みらいプラン」では、子どもや子育てに関する計画ということはあるが、結婚支援や若者支援に広く取り組む計画ということが分かりづらいと思う。(B委員)

子どもの貧困対策計画としての位置づけについて

・多様な人たちを社会の中に包み込んでいくといった視点からも、子どもの貧困対策計画をこの基本計画に位置付けるということに賛成。

・貧困対策についての基本的方向性・理念の中のひとつには、貧困の連鎖の防止や貧困を断ち切るという視点もあると思うが、計画の中でどのように位置づけられているのか。(C委員)

・負の連鎖をどう断ち切るかが大事。就労支援等について、ケーススタディを作ってわかりやすく周知することが必要。(D委員)

希望出生率について

・希望出生率の記載について、「結婚や出産はあくまでも個人の自由な決定に基づく」というだけではなくて、経済的や身体的な理由など、産めない理由はまだあるので、もう少し個人の様々な理由にも配慮した表現にしてもらいたい。

(E委員)

・誰に示さなければいけない目標値なのか。子どもを産もうとしている県民の方々や家庭に対する目標値だけに見えてしまう。県や市町村側がどんなことを

しなければいけないのかというところが見えてこないで、違和感がある。(F委員)

・現実と希望の乖離が、少子化の背景となっている。その乖離を埋めてみんなの希望を実現することを目指すというのは、国や行政、あるいは私達みんなのすべきことであること、というふうな書きぶりかどうか。(C委員)

計画全般等について

・家庭で子育てされている方の財政的支援が抜けている。国の制度でもちよつと抜けていると思うが、富山県として将来的にもっと財政的支援ができないかということ、どこかに組み込めないか。(G委員)

・子育て期で一番お金がかかるのは、大概の方は大学へ行ってからといわれるが、学生たちは最初のスタートの部分が不安だという。最初が肝心という観点から、出産についても、出産祝い金として一人目からあれば、二人目三人目と考えられるのではないか。(A委員)

・全般において、これだけのものを実際に動かしていくとなると、明らかに人材不足と感じる。ありとあらゆるところに人材が不足しているので、特に5年計画に当たっては、最初のうちは人材育成に重きをおいていった方がいいと思う。これだけの計画を立てて、絵に描いた餅にならないようにその後の検討が必要。(B委員)

・大多数の施策は、市町村レベルで行うことになるため、基本計画の具体的な実施に当たっては、市町村とのやりとりを密にして欲しい。

・施策の相互の関連性を是非連携を取っていただきたい。特に横の連携を施策ごとに図っていただくことが大事。(H委員)

・保育料の第3子以上無料化について、富山県は全国に先駆けて第3子の保育料の無料化が決まり、大変歓迎すべき施策だと思う。富山市でも施策が実現されるよう要望したい。

・新たな基本計画ができることによって、少子化対策、子育て支援が平成27年度から変わってきたと言われるようになればよい。

・市町村レベルの子育て支援計画にどう具体化されるかがすごく大事なポイントだと思う。市町村との連携を図っていただきたい。(I委員)

- ・基本計画第5章について、数が足りていればいいというわけではない。保育所等の質の向上にも踏み込んでいただきたい。
- ・家族のイラストについて、子ども3人や父親の子育てへの参画も現れるイラストにすれば、若い方々にも意識付けできるのではないか。
- ・オムツ替えベッドのある男子トイレなど、物理的にそうできないと、父親が子育てに参画したくてもできなくなる。物理的に改善できるようなところをチェックしていくことも必要。(F委員)

- ・学童保育の充実など、両立して働きやすい環境を作って欲しい。(J委員)